

平成 27 年度以前入学者への、平成 28 年度からの 新カリキュラムで科目を履修する際の注意事項

2016 年度 (平成 28 年度) から、全学的に新カリキュラム (クォーター制) に移行します。2015 年度以前入学者も、この、従来とは異なる形で開講される科目を履修することになります。

一方で、卒業判定等は入学時のルール (旧カリキュラム) に沿って行います。

- 2016 年度以降に取得する単位は、新カリキュラムの科目名で成績表に記載されます。
- 卒業・修了判定は、それらの科目を「読み替え表」

http://www.titech.ac.jp/enrolled/life/course_conversion/index.html

を用いて、旧カリキュラムの対応する科目に変換し、旧カリキュラムのルールに基づいて卒業判定等を行います。

読み替え表は、原則として、「履修したい科目の、旧カリキュラムでの科目名 (表の一番左) から、対応する新科目を調べる」ことを想定したレイアウトになっております。「新カリキュラムでの開講科目名から、その科目名が旧カリキュラムでの何に相当するのか」を調べることに特化した表 (逆向きの対応表) は存在しません。少し見にくいですが、同じ表を利用してください。

新旧のカリキュラムの違いから、この読み替え対応が複雑な科目や、必修科目の読み替えで注意を要する事項が幾つか生じています。それらを理解する上での基本的な思想を要約すると、

「初めて学ぶ科目は、新カリキュラムに近い形で。

再履修で学ぶ科目は、旧カリキュラムに近い形で」

と言えます。基本的には入学年度毎に違いが発生するので、以下、年度毎に、特に注意すべき事項を列挙します。さらに詳細な情報は、読み替え表の各科目の備考欄を参照して下さい。なお、この件に関する教員への問い合わせ窓口は、桑田が担当します。

新旧科目の見分け方

以下の説明で、「新カリキュラムの科目 (以下、「新科目」等と呼称)」と「旧カリキュラムの科目を、移行措置として開講しているもの (以下、「旧科目」等と呼称)」が登場します。これらを見分けるためには、その科目のコード番号を参照してください。

- コード番号が MTH から始まるものは、新カリキュラムの科目です。
- コード番号が ZUA から始まるものは、旧カリキュラムの科目です。

以下のページで、入学年度別の注意事項をまとめてあります
(全 4 ページ)。

2015 年度 (平成 27 年度) 入学者

[新科目名での必修科目]

位相空間論第一 (1Q)、同第二 (2Q)、解析学概論第一 (1Q)、同第二 (2Q)

(「読み替え表」の項目「推奨」に基づく)。次の項目も参照のこと。

来年度以降 (今年度単位を取得できなかった / しなかった場合) も同様。

[演習つき科目について]

2 年次開講の演習つき科目は、新カリキュラムの

「代数学概論第一～第四」「位相空間論第一～第四」「解析学概論第一～第四」

を履修すること。対応する旧科目も存在するが、そちらを履修しないこと

(「代数学概論第一、第二」は同一名旧科目があるので、特に注意すること)。

来年度以降も同様。

2014 年度 (平成 26 年度) 入学者

[3 年次演習つき科目について]

3 年次開講の演習つき科目は、新カリキュラムの

「代数学第一、第二」「幾何学第一、第二」

「複素解析第一、同第二」「実解析第一、第二」

を履修すること。対応する旧科目も存在するが、そちらを履修しないこと

(「 $\times\times$ 第一」は同一名旧科目があるので、特に注意すること)。

来年度以降 (今年度単位を取得できなかった / しなかった場合) も同様。

[新科目名での必修科目]

単位を取得していない必修科目がある場合は、

集合と位相第一 (1Q)、同第二 (3Q)、解析概論第一 (1Q)、同第二 (3Q)

のうち、未取得科目に対応するものを履修すること。「これらのどの科目が、平成 27 年度以前のどの科目に対応するのか」は、読み替え表を参照のこと (「読み替え表」の項目「推奨」は適用されない)。

来年度以降も同様。次の項目も参照のこと。

[2 年次演習つき科目について]

2 年次開講の演習つき科目を履修する場合は、再履修か否かに関わらず、旧科目名の

「代数学概論第一、第二」「代数学演習 A 第一、第二」

「集合と位相第一、第二」「集合と位相演習、幾何学演習 A」

「解析概論第一、第二」「解析学演習 A 第一、第二」

を履修すること。対応する新科目も存在するが、そちらを履修しないこと

(「代数学概論第一、第二」は同一名新科目があるので、特に注意すること)。

来年度以降も同様。また、講義と演習はセットで履修することを強く推奨する。

2013 年度 (平成 25 年度) 以前入学者

[読み替え表にない科目について]

平成 28 年度開講の「数学特殊講義 M,N,P」は、読み替え表の新カリキュラムには存在しないが履修は可能 (読み替え表が修正され、掲載されました (2016/04/14))。なお、「数学特殊講義 Q」は存在しない (履修不可)。

[大学院科目と特別講義]

大学院科目を学部の中に先取り履修する場合、「×× 特別講義 A ~ D」とは同時に履修できないことがある。要相談。

[新科目名での必修科目]

単位を取得していない必修科目がある場合は、

集合と位相第一 (1Q)、同第二 (3Q)、解析概論第一 (1Q)、同第二 (3Q)

のうち、未取得科目に対応するものを履修すること。「これらのどの科目が、平成 27 年度以前のどの科目に対応するのか」は、読み替え表を参照のこと (「読み替え表」の項目「推奨」は適用されない)。

来年度以降 (今年度単位を取得できなかった / しなかった場合) も同様。次の項目も参照のこと。

[2 年次演習つき科目について]

2 年次開講の演習つき科目を履修する場合は、再履修か否かに関わらず、旧科目名の

「代数学概論第一、第二」「代数学演習 A 第一、同第二」

「集合と位相第一、第二」「集合と位相演習、幾何学演習 A」

「解析概論第一、第二」「解析学演習 A 第一、同第二」

を履修すること。対応する新科目も存在するが、そちらを履修しないこと

(「代数学概論第一、第二」は同一名新科目があるので、特に注意すること)。

来年度以降も同様。また、講義と演習はセットで履修することを強く推奨する。

[3 年次演習つき科目について]

3 年次開講の演習つき科目を履修する場合は、再履修か否かに関わらず、旧科目名の

「代数学第一」「代数学演習 B 第一」「幾何学第一」「幾何学演習 B 第一」

「複素解析第一」「解析学演習 B 第一」「実解析第一」「解析学演習 C 第一」

を履修すること。対応する新科目も存在するが、そちらを履修しないこと

(講義の方は同一名新科目があるので、特に注意すること)。

来年度以降も同様。また、講義と演習はセットで履修することを強く推奨する。